

ていくのかということとところに主軸を置いて、伝えるような形にしている。その中で先ほどの保護者との対応もあつたが、要は(100)子どもを取り巻く周囲にも少し視野を広げてもらいたいということがある。それは(101)一時保育であつたり、子育て支援であつたり、保育園はやはりいろいろな事情を抱えている子どもがいる。これがリアルな現場なので、踏み込み過ぎはできないが、こういった事情があるということだつたり。そういう中で学生自身が感じてもらつたり、考えてもらおうということ。少し、社会を意識しているような仕事を感じてもらえたらいいと思つている。

養②：非常にありがたい話だとお聞きした。基本的には、個人的には実習に行つて保育者になつてほしいと思つているが、悪い話をすると、残念ながら続かない学生もいる。続かない場合は文章が書けない。残念ながら。そういう学生はよく分かつている園にお願いするが、決して厳しくないところでも、こちらもちよつと無責任ですが、「奇跡は起きなかつたね」というようなことで。実習 I は行つたけど、II はとでもじゃないけど、あちらも勘弁だし、こちらもちよつと駄目だよねということと、というふうになつてしまふことが多い。また、難しいところだが、保育所のほうは無事終わつても、幼稚園はだめというふうになつてしまふこともある。

そういう学生はちよつと置いておいて。まずは実習に行つて、たくさん学んできてほしい。とにかく学校で学べないことを学んでほしいので。やはり子どもの様子。いくらかビデオを見せても、1日通して、1週間、2週間通して見るといふ実習時間はないので。あとは先生の仕事。保育者の仕事を見てほしい、自分もそれに関わりたいたいと思つてもらえればそれでいいと思う。自分で抱負を、(102)立派な抱負を書いているが、途中で全部飛んでしまつて、忙しいうちに終わつてしまつたという。楽しかつたと言っている学生もいるが、それは受け入れ先が非常に丁寧に関わつてくださったと言つたところもある。いっぱい、いっぱいになつてしまつて、もう実習 II に行きたくないというように、(103)ネガティブな感じを書いてくる学生も少なくはないので、それをどうやつて実習 II にもついでいけるのか。1つ終わつて、終わりでないので、特に保育実習の場合 I から II になつて、施設実習もあつて、幼稚園とあるの

養①：(104)保育者を目指す学生は真面目な学生が多いのか、やはり失敗を恐れる。それから、(105)評価のことをすごく気にする。だから、事前のときに、失敗は成功の元ではないけれど、学ぶことがたくさんあるんだということと、よくよく授業の中で伝えてはいる。けれども、(106)やはりかなりの不安を抱えている。先生がおっしゃつたように実習中に続けられなくなるとか、あつた学生は、フォローをその後、実習から帰つてきて、次の実習 II に行く前に、しつかりフォローしなさいと思つている。そこが先生もおつ

には無難に、(107)安全にという傾向が抜けきらないようである。

実習について(108)思つていたのと違つたという理想と現実の違い、想像して見たのと違つたということでもモチベーションが下がつてしまつたという学生が少数だが一定数いる。たとえば、9月くらいに実習をしているので、運動会の時期に重なつてきているせいも、保育者が思つたよりも厳しいという状況を目の当たりにすることがある。一年間を通した保育を見ることができればよいが、それはできないのでどうしてもこの時期特有の(109)一側面だけで、誤つた保育者像を受けてしまふところがあるように思う。

(110)(111)学生にとつてよい経験となるのは、部分・責任実習。部分・責任実習があると、実習が始まる前は学生はとでも憂鬱そうでも、不安があつているが、終つて帰つてきたときの顔をみていると、それくらいハートのハードルがあつた方が学ぶところが多いのではないかと感じる。

養④：(112)実践して感じてきてほしいことは、保育の魅力だと思う。それは、(113)まずは子ども理解をすること、(114)保育者の援助の関係をわかつてほしいということ。もうひとつは、(115)計画と実践と振り返りの関係性が見えた方がいい。実習中は12日しかないもので、短期的な今日の姿をどう振り返つて明日の計画に繋がつているかということが見える、(116)子どもの成長や(117)保育の面白さがわかるのだからと思う。そこに特化すると実習は面白くなるのではないが、(118)そうではなくて、今までのやりかたというか、もちろん大事なこともあつたが、(119)責任実習とか、(120)日誌の記録の形式とか、なんとなくそれが今邪魔しているような気がしている

(これまでに良かつたと感じる実習はあるか)

養④：(121)先駆的で面白かつたのは、実習生がドキュメンテーションを作るといふ実習で、(122)実習日誌がドキュメンテーションであつた。園からやらせてみてもいいかということ、是非お願いしまふところもあると思うが、(123)写校によつては、その形式は対応できないところもあると思うが、(124)写真を用いたことと面白さは、学生が見ようとする視点が焦点化されていくこと。とくに実習初期からの変容が見えてきやすいということ。もうひとつは、学生が文字や言葉だけでしゃべるよりも、(125)その場面の写真に言葉足して実習指導者と一緒に話せることが助けになつて(126)場面を共有しやすくなるということがある。そのことから(127)自分がこう思つて、こうかかわつたという子どもも理解が語れたり、(128)(129)実習指導者から実は今この子はこういう継続したかかわりがあつて、その子どもの特性や背景みたいなことがあつたというところが具体的に保育者の援助がどうされてきたという話が語られる中で、わかるというか、見えてくる。実習生自身も、子どもの遊びを追うようになつたり、保育者の姿を学生自身が見たいというような、課題に応じた動きが焦点化されやすくなるというのがみえた。

もう一つは、(130)学生自身は教えていただく人と学ぶ人という関係にある

実習期間
中の経験
内容

<p>実習期間中の経験内容</p>	<p>しゃったように、施設実習との連携だと思ふ。担当者が違うので。⁽¹⁶²⁾保育所実習で自己評価をして、それが自分であまりよくなかったとしても、施設実習で案外よかったということがある。そこから自信を持って、保育所実習 II には、非常に生き生きと実習するという例が結構ある。そのことで、施設実習の担当者として自己評価のポートフォリオを作成して、保育所実習 I、施設実習 I それから施設 II、保育所実習 II という形でちよと幼稚園等の影響は取れないが、最終的にそこまでのポートフォリオを作って、自分を可視化して、成長しているなということを、実習として成長しているということ、自信を持って社会に出てほしいという思いで、そういう取り組みをしている。</p> <p>(施設実習ではなぜ挫折せずにつながる要因はなぜか?)</p> <p>養①: 記録の仕方が、おそらく記録でめげてしまう学生が多いと思うが、施設の記録はエピソード記録をしている。1 日 1 枚程度の記録で。しかもあまり細かいところを、記録については指導を受けないということがあって、結果が、やはり人と人のつき合だと、人間と人間の触れ合いだということ、子どもではなくてうまくできなかつたことを、施設の障害を持つ方とか、知的障害の方とか、児童養護施設の学童、中学生、高校生といった小さな子どもに学生が学ぶ。学生が、子どもではうまく関われなかつたけど、何か施設実習はうまくいったなという、やはりちよと視野が広がる。それから人間理解が深まるというところで、それが要因かどうかは分からないが、人として成長して帰ってくるような気がする。施設実習は、そうすると、保育所実習でも比較的肩の力が抜けて、自分が人として関わればいいんだというよりなことを。⁽¹⁶⁴⁾先生であらねばならぬという位置でいくと、そういう気持ちで、不安が大きい、失敗を恐れるというところがあるんだと思う。すごくのびのびと生き生きとやってくるのを見て、そこが恐らく施設実習ではないかということ、施設実習の担当の教員と 4 年前か、5 年前から、自己評価のポートフォリオを作った。</p> <p>確認をし合って、最終の、本人の総括、背景があって、先生方にも見えてただける。ただ、実習の何かにそれを入れ込む、本当の実習日誌の中でそういうのを挟み込んでいくところまでは聞いていない。別物としてやって。</p>	<p>が、「へえ、そう見えたの。実習生からその子そう見えたの、なるほどね。」と、かなり対等な関係が作られる中で、⁽¹⁰¹⁾その人の見え方を肯定した実習指導をやってくれたいという場面があって、そういう時にはかなり自己肯定感がある。「私なんかの意見をちゃんと受け入れてくれる」ということがすごく大切にされている。職員側も実習生が来てくれることが学びになるという姿勢を強く打ち出してくれているというのがある。そういう事例がある。</p> <p>⁽¹⁰⁴⁾責任実習では、⁽¹⁰⁵⁾子どもの姿から、⁽¹⁰⁶⁾子どもの興味・関心、⁽¹⁰⁶⁾今までやってきたことから、⁽¹⁰⁷⁾計画を立てて、⁽¹⁰⁸⁾実践から反省までを一緒にやって。学生の責任実習をやっている姿をビデオで撮って、「この時、このこは見ていたけど、後でこんなふうにはやっていたのよ」というようなことをいってくれたりとか、そういう指導は未来的なことだと思ふ。</p> <p>養③: 特別なことはないが、最近、⁽¹¹⁰⁾可視化のいうことが大事にされているが、⁽¹¹²⁾子どもだけではなく学生を追っても写真や映像を撮るのは面白いと思ふ。</p>
	<p>保④: 子どもも理解のところでは、特に⁽¹⁶⁵⁾実習 II の場合、会議とかにも参加してもらっていいかなと思っている。⁽¹⁶⁶⁾どういうふうな保育者が子どもが話し合う過程を見るときも大事なのかなというふうに思う。そもそもやはり保育士自身が子どもを理解できているのかというと、発達の勉強はもちろんできるが、やはり人として考えたときに、理解をしていくということが保育の仕事の主なところだと思ふので。その感覚をどう伝えてあげ</p>	<p>保④: ⁽¹⁴⁸⁾部分実習、⁽¹⁴⁸⁾一日実習は、相当エネルギーを使うと思う。でも、終わった後に、⁽¹⁶⁰⁾充実感と⁽¹⁵¹⁾達成感があればいいなということが願いである。自信をもって子どもにかかわってもらえるのが一番。</p> <p>(実習生が自信を持てるような指導とは?)</p> <p>保④: ⁽¹⁵²⁾積極的な学生に関しては見守りをして、⁽¹⁵³⁾消極的な学生、⁽¹⁵⁶⁾自信のない学生であることが分かった時には、⁽¹⁶⁰⁾子どもと一緒に、寄り</p>

られるのかなと思う。

先ほどの失敗から学んでというふうな園に送り出していたらいいと思う。先ほどの失敗から学んでというふうな園に送り出していたらいいと思う。先ほどの失敗から学んでというふうな園に送り出していたらいいと思う。先ほどの失敗から学んでというふうな園に送り出していたらいいと思う。先ほどの失敗から学んでというふうな園に送り出していたらいいと思う。

⁽¹⁴⁹⁾責任実習は、その子に任せて、その時間を作り上げてもらうというこ
とではなくて、私たちと一緒に作り上げていこうということ意識してい
る。実習生の担当として、そのときには主任が担当者としてつくが、その計
画の段階では3回、4回と話し合いを重ねて、現場のスタッフは学生がやる
となつたときに、どこまで関わっていいのかとか、その計画のところでもど
こまで学生の思いを伝えてもらって、「これ、失敗するな」と思うところもあ
ったりすると思う。それをどこまでサポートするのか、事前に伝えるところもあ
のかというところでは、私個人の考えとしては、私のものにならない程度に
一緒に作り上げていく。答えは示さないにしても、こうなつたときにその
先はどうなりそうかなとか、その予測を立てさせてあげるといふことは、大
事かなというふうな思っている。

それで、私自身が始めのころ現場でやっていたときには、⁽¹⁴⁷⁾学生の責任実
習なので自分は引こうという思いでやっていた。それを自分たちの学びにも
したり、学生により効果的に学んでもらおうと考えたときには、一緒に入っ
てちよつと一緒に頭に思いながら「最近こうだから、こういう遊びもいいか
もね」みたいな、そういうもの。

保②：異年齢児保育というのをやっていて、3、4、5でクラスになっている。
⁽¹⁴⁸⁾指導実習をするのに、3、4、5を学生が持つとなると大変なので、⁽¹⁴⁹⁾少
し人数を少なめに、やりやすい環境を提案するようにしている。一応は
学生にも聞くが、2クラスあるので、2クラス合わせると24人、1クラスだ
と半分12人の年齢の子たちなんだよということを示して、学生さん自身に
も選んでもらう。できれば少ない人数で、やれた経験のほうがいいのかなと
いうふうに、私個人としては思っている、学生にも話したりしている。

なかなか理解とまでは難しかったりもするので、⁽¹⁴⁸⁾理解をするというよ
りは、理解をする機会のところに参加してもらおうという形をとっている。具
体的に言うと、クラスの打ち合わせに入ってもらって、先生たちがどんな話
をしているのか、月案とか週案だと、小さいクラスだと個人の姿を出して、
育てたい姿をみんな考えて、そのための配慮や支援を考えたりしているの

添って近くについて「こういうふうについてごらん」というように具体的にな
すドバイスをするようにしている。

やりたいこと、やってみたいこと大事にして、計画を最初に出すようにし
ている。でもその計画は、まったく書いていなかったり、よく書いていたり
差があるが、欠けている部分は⁽¹⁴⁹⁾保育士がサポートは100%、⁽¹⁴⁸⁾全面協
力です。で、⁽¹⁴⁸⁾その学生が上手にできたという責任実習、一日になるように
している。そして私たちが、こういうサポートをしたというのを青文字で書
くようにしている。

保③：最近、いろんなものをネットで調べてくるので、⁽¹⁵⁴⁾実際に指導実習の
時に、こんなものを作りたいということもネットで調べてきて「こんなもの
難しんじゃないかというものが、実はその年れには合っていないかたりとか、
年齢に合っていないから、違うものにしてしましよう、とか、学校でやってきたも
のじゃないかと、言ってお返す。教材の選び方などは本来、学校で学んで
はいるのだから、実習では何か新しいものが見えることがある。すばらしいも
というふうな実習生の焦りのようなものがある。すばらしいもの
のしななければいけないとか、そのような思いを持っているように感じる。
⁽¹⁴⁷⁾失敗を恐れるというところからも来るのかもしれない。そのように聞い
たり、こんなものはどうかと案をだしたりして、⁽¹⁴⁸⁾一緒に指導案を考え直す
ような指導をしている。

(指導計画は提示しているか?)

保③：オリエンテーションのときははいっぱい、いっぱいな状況で見せても頭
に入らないような感じなので、クラスに入るときに⁽¹⁴⁴⁾そのクラスの指導案
を見せるようにしている。

子ども理解のため

の
工夫

で、そういう方向性で子どもたちのことを理解して、次の月にどう関わるかというところを相談している場に、学生にいてもらう、聞いていてもらおうというような機会を作るようにしている。

記録はこういう記録がいいのかは感想みたいになってしまっている学生もいるので、その辺、どういのがいいか、園の方も苦戦していて、「見直しをしないとすね」という話を園長ともしている。

時系列とエピソードの記録については、実習は毎日ある程度同じ。登園と最後とか、お昼とかというのは同じなので、もう少し絞って、実習の朝から最後まででの記録は大変じゃないかなというふうに思っている。

養②：実習が続かないと、⁽¹³³⁾文章が書けない、指導案も書けないので、途中で駄目になったりというのほもちろんある。学生によっても保育の道を目指すという中で、なかなか⁽¹³⁴⁾人前に立って集団で保育をすることを苦手な学生もいる。おとなしい子とか、真面目なんだけど大きな声を出して子どもと関われない。そうするとそういう責任実習、部分実習に振り替えてこなふうにやるといこと、実習は向いていないなというふうになってしまふようなものもいることはい。もったいないなことを思っている。今だと⁽¹³⁵⁾小規模（保育）のほうに流れてしまう。できるだけ規模が小さいところ、小さいところにどちらかという逃げているという言い方、本人には言わないですけど、逃げていっているという評価をしますけれども、そういうもんじゃやないのかなというの、やはりもったいないと思う。

パソコンでの記録に対してそういう配慮があると。⁽¹³⁶⁾記録はうちの学生はちよつとパソコンを使いこなせない。現場のほうも理解して、パソコンでいいよというところもある。うちの学生のスキルというか、パソコンを持っていない。学校にはあるけど、家にはないとか。スマホとかはいじるんだけどパソコンはないと、なかなかそういうのもあって。文章を書けない、書く量が多いという感じである。書ける、書けないという問題もあるが、書けるけど、教師から見ると書き直し。5枚書いたのに、5枚書き直したとか。もう、嫌になってくる。幼稚園からのほうが多いかなと思っていたが、そうでもなく、だいぶその辺は配慮していただいている園が多くなっていく。いろいろな要素が重なって駄目な場合ももちろんあるが、うまくいく場合は、その辺を配慮していただいて、どの辺をスタンダードにしてもらえばいいのかなというのはい難しいなと思う。

養①：⁽¹³⁷⁾子ども理解については、やっぱり一番学んでほしいところ。実習授業自体を短大と4大が一緒になって、教員同士で教材作りをやっている。子ども理解に関しては、保育園に行って映像を撮ってきて、自分たちで撮った映像を学生に見せて、例えばトランプとかがあるシーンだと、保育者がどういう対応をすればいいのかわからないのを幾つか選択肢をこちらで挙げておいて、自分は1に丸をする、2に丸をする、3に丸をする、その他みたいにか

ておいて、「ここであなたならどうしますか」、「ここであなたならどうしますか」という映像を7コマぐらい作った。どうしてそれを選んだか。自分だったらこうするという理由も書いてもらう。そして、今度はグループワークをしますと、みんなが違うということが分かる。子どもへの対応は正解がないということ。こういう正しい関わり方があるとか、そういうふうな正解が欲しいという学生が多いので、逆にこれだけ対応が違うから、幾つかの対応があつていいんだということを、学生が行く前からちやんやみんなで理解して、子どもに関わるように、そういう授業を作ったということが一つ。

子ども理解のため
の
工夫

それから⁽¹³⁸⁾実習記録に関しては、今もちょっと取り組んでいる最中である。時系列も同じで、やはりⅠのほうはどうしてもクラスに2日とか、少ししか入らないので、エピソードを書くまでに次に移動してしまうと、やっぱり難しいかなと思う。時系列が苦手な学生もいるので、実際にそれも教材作りからやって、保育園に行つて、時計を撮つて、例えば1歳児だとか2歳児の映像がある部分、遊びの部分とか、それから、食事の部分とかを撮つてきて、そして、それを2つか3つあるんですけれども、時計が出ていますので、何時何分に、そこで気付いたこととかを書くようなトレーニングをしている。時系列はそういうトレーニングをしている。⁽¹⁴⁰⁾Ⅱに行くときは、積極的にエピソードを書けるようにということ、Ⅰの日誌を持ってきてもらつて、その中から印象に残ったエピソードを自分で書き出すというのをやっている。

その⁽¹⁴¹⁾エピソードを書いたらまた、グループ分けで、どんなエピソードがあるのということをお互いに読み合つて、グループワークをするということをやつてから実習に行くので、ほとんどの学生が今のエピソードを書いてきて、時系列は作るぐらいいした。それが5～6年の取り組み。最初は現場に聞いてやりなさいと言っていたが、現場からそれは困りますと言われて、3割ぐらいしかできなかつた。今は8割、9割方が「エピソードでいいですよ」と言われている。今回は1人か2人が全部時系列で、90%以上の学生がエピソードを1本か多くて2本ぐらいは毎日書いてくるというような状態である。

⁽¹⁴⁰⁾エピソードを書くこと、子ども理解が深まるし、読んでいただいた先生方から、「これは実はこういうこともあったのよ」という、⁽¹⁴¹⁾記録からまた子ども理解を深めるようなアドバイスをもらったりするので、すごく学んだという実感があるようである時系列よりも、やっぱりこちらのほうがいいと、Ⅰから書きたかつたと、Ⅱの学生でも言っている。まだちよつとⅠでは躊躇しているが、少しトレーニングを入れたら、書けるのかもしれないと思っている。

⁽¹⁴²⁾指導実習に関しては、非常に指導案をうまく書ける学生と、あまり書けない苦手な学生の差が大きいということが分かっている。グループワークで指導案を1本立てると言っている。3クラスあるが、各グループで1本立てたら、⁽¹⁴³⁾それを元に模擬保育をやってもらい、実習生と子

	<p><u>どもになってもらって、実演するのをやっています。</u>その後、こういうふうにしたほうがいいんじゃないかということ、グループディスカッションをして、さらにそれを修正する。それをやってから、今度は本人が自分で指導案を立てるといって、できるだけ実力の差があまりないように、みんなが同じように指導案が書けるような授業をと思って、そういうふうになっています。</p>	<p>養③：訪問指導は、保育士課程担当の教員で行っている。 (160) <u>難しいと感じている。</u>園長先生に対応していただくことが多いが、(160) <u>保育者とは保育中で話をすることが出来ない。</u>学生と直接関わっている<u>保育者の意見を聞けること</u>とおおろおろ思う。(162) <u>園長先生だと、(163)挨拶だけで終わってしまう</u>こともなきにしもあらず。直接指導している保育者と話すことで訪問指導の成果を出せるのではないかと思う。 実習中は心配をかけないように「大丈夫です」という学生が多いように思う。実習をおえた後になんか後になって、「大丈夫です」という学生が多いように聞くことがある。(181) <u>実習中に学生の本音を聞くことが難しい。</u>実際に、学生は実習中、新しいことばかりで、自分が実習で今何を体験しているのかというところを消化しきれない、整理できていないので、尋ねてもなかなかうまく返答できないかと思う。</p>
<p>訪問指導</p>	<p>養②：教員によって才能というのはいろいろ差があるので、一概には言えないが、基本的には(171) <u>最低限実習生の様子を鑑み、かつ実習生と簡単でいいから、スーパービジョンとか、スーパーバイズとかいろいろ言っている方が、いい話をしていく</u>というのが大事だと思う。学生がいいと思っている教員も、いいわけではないので。 (全員担当ですか?) 養②：(187) <u>マニュアルを作ってやっています。</u>最初はどうかやってみていいか分からないというのがある。記録のところでも最低限これ聞いてくださいというところでやっています。 養①：(189) <u>1年生からの学生情報というのをできるだけ学科で共有している。</u>リポートを提出したときにあまり文章が書けないとか、メンタル面で配慮が必要とか、グループワークをしていてもあまり発言がないとか、どうもグループワークが苦手のようなどうか。そういった学生の情報を事前に学科で共有しておくと、巡回に行くに当たってどういう学生であるか、実習現場の担当者から初めて聞かされるのではなく、実習訪問に生かしてもらえらえると思っっている。 マニュアルはもちろんあるが、できるだけ情報共有をしたかったので、気になつたことがあれば、これは担当者がフォローに行つたほうがいいという場合もあるので、記録してもらいたい実習中は速やかな情報共有を心掛けている 保①：まさに(200) <u>実習生の気持ち</u>をほぐしてあげてほしいというのがある。なかなか、実際のところは私も主任に託しているところがある。どこまで実習生の今の立ち位置だったり、課題だったり、悩みを把握できているかと言われると、至らないところがあると思う。実習生の現状、立ち位置を、園と違う立場から確認してもらいたい。あとは、私自身も反省していることとだが、終わり際に違う業務に私が行ってしまった、帰られたということもあつたりするので、実習生の感じている課題などを最終的に共有して、終わるといふような、そこをちゃんと自分自身が理解しておかないかかったなというふうを感じていた。 保②：いつも先生が訪問にきてくださると、学生は泣いちゃうことがあつて。涙しながら出てくる様子を見掛けるが、それぐらい緊張しているんだなとい</p>	<p>養④：(188) <u>訪問指導は、学科教員全員で行っている。</u>単科の大学なので保育のことをわからずに訪問しているという教員はいないというところはよい。 事前指導の最後に、(184) <u>訪問指導に行く担当教員と学生複数で(複数)でグループ面談を実施している。</u>(186) <u>顔合わせや事前になるべく不安を聞き出して軽減させる</u>ようなことをしている。 実習では体験することが多様すぎて、達成したい課題はなにか、後半どのように実習していけばよいか、を学生とは話している。そうすると、ポタンの掛け違いが起こっている場合には、(189) <u>学生から話があるので、よく話を聞くようにしている。</u>また、(172) <u>現場の指導の担当の先生と話をするときも、(170) まずは学生の状況を聞き、ずれがある場合には(170) 学生本人がどう思っているかを聞いてみてほしい</u>ということも伝え、(173) <u>橋渡しをするようにしている。</u>学生本人はこういうつもりでとか、ちよつと委縮しているというふうな(174) <u>学生の状況を伝えることを心がけている。</u> 最近、(170) <u>欠勤の対応(補充)とか、実習期間が養成校で違うことがあるので、自身の学校での実習日数についての説明やお願いをしている。</u>学生が時々、そういうことを自分でできずに実習日数が1日足りないというふうなことがあつたりするので、そういうこともしている。 (172)(169) <u>指導者と学生と両方の話を聞く</u>ということをしてはいるが、実習状況を聞く項目としては、(178) <u>日誌、(178) 子どものかかわり、指導者との関係、(177) 課題の取り組み等の項目を立てて共通に聞き取れることを決めて訪問指導を進める</u>ようにしている。</p>

	<p>うのがやっぱり感じられる。来てもらったらここにここで声を掛けて「頑張つて」と言ってもらえたら一番いいというふうには思っている。あとは学生の様子を養成校の先生が話してくれるので、それを聞いて、その後、後半戦の対応がやりやすいというふうには思っている。</p>	<p>保③：訪問指導では、⁽¹⁹⁶⁾必ず訪問指導の先生に実習している姿を見てもらうようにしている。⁽¹⁹⁶⁾子どもとどんなふうに接しているかを見てもらうように必ずしている。</p> <p>途中経過ではあるが、⁽¹⁹⁷⁾実習日誌などを読んでもらって⁽¹⁹⁸⁾学生の気付きを確認してもらったり、記入状況によっては訪問指導の先生から指導してもらおうようにしている。</p> <p>⁽¹⁹⁴⁾最初に学生の状況について説明し、⁽¹⁹³⁾その後には学生と面談の時間を作り、⁽¹⁹⁴⁾訪問指導の先生から、学生にフィードバックしてもらおうようにしている。</p>
<p>保護者支援の理解経験</p>	<p>保①：私が前いた保育園では、子育て支援センターが併設されていたので、実習生の実習のねらいをしっかりと聞いて、そういうことを支援したいというふうな思いを持つ学生には、⁽²⁰²³⁾保育のクラス配置だけじゃなく、支援センターのほうにも行けるんだよということば話をしている。</p> <p>保②：⁽²⁰⁰⁾保護者支援のところは本当に課題で、難しいところ。なかなか保育者自身も理解するのに、考えさせられるところがあつたりしている。その中で学生にこのところの経験だったり、理解というのは、どういう形であげたほうがいいのかというの、まだはつきりしていないところがある。保護者支援はその家庭によって違つたりするので、支援の仕方というのでも難しいと思つている。</p> <p>⁽²⁰⁰⁾話としては説明ができて、理解となつたら、そこまではちよつと難しいのかなと思つるところもある。実際に来た人に対して、聞いたり、表情を見たり、保護者の様子をというところがある。</p> <p>養②：大体やってきてほしいと思うのは、先ほどお話しいただいたように、⁽²⁰⁷⁾送迎のときに子どもと親御さんとの関わりの様子を見ること。あとは⁽²⁰⁸⁾支援センターがあれば、そういうところは一時保育とかをやつていれれば見せてもらおうというの、⁽²¹⁴⁾IIのほうで保護者支援、地域子育て支援が入つて統一しているのが、⁽²¹⁴⁾IIのほうで評価表を県の方で統一している。項目を見直したいので、どれが大事だと思ふか、どれが評価しにくいかと聞いたたら、一番初めに評価に評価の必要がないときたのがこの子育て支援で</p>	<p>保④：訪問指導では、まず⁽¹⁹⁰⁾学生と訪問指導の先生とが応接室で⁽¹⁹²⁾話をする場を作っている。⁽¹⁹⁶⁾園長と話をしているが、保育中はどうしても手が離せないで保育に当たつている直接の学生の指導の保育者とは確かに話す時間はとれていない。先ほどの話を聞いて、「あーそうか！」と気づいたが、立ち話程度しかできない。</p> <p>訪問指導の先生がくると、実習生も学生も先生に戻つて話をし、すつきりとした顔になつて現場に戻つてくる姿がある。⁽²⁰⁰⁾学校の先生と会うことで実習生も元気になる。訪問の先生の偉大さを感じている。</p> <p>保④：保護者の方に実習生が来ていることを知らせている。⁽²¹⁷⁾保護者への挨拶をするよう実習生に指導している。</p> <p>⁽²⁰³⁾支援センターでの実習では、保育所とは機能が違うので、聞くことに徹するよう指導している。⁽²¹⁵⁾相談をされている母親の隣にいる⁽²¹⁶⁾子どもと遊ぶことはしている。</p> <p>保育園の方の実習では、⁽²¹⁹⁾実習生であつても保護者の方から質問がきたりすることもある。そのような時は実習生であることをきちんと伝え、難しいことは答えないよう指導している。もし、⁽²¹⁸⁾できたらその日の子どものかわいかったところを1つ伝えるよう指導している。⁽²²⁰⁾子どものお庭ノート(0から2歳)というのがあるが、それを読んでもらい、それに対する⁽²²²⁾質問に答えるようにしている。</p> <p>保③：⁽²²⁵⁾一番難しいところだと現場では思っている。毎日、地域の子育て支援をしているわけではない。たまたま⁽²²⁶⁾実習中に何かやつている時には、⁽²²⁷⁾見てもらうことができるが、それ以外は、⁽²²⁸⁾やつていることの説明で終わつてしまふ。</p> <p>保護者との会話というの、⁽²³¹⁾守秘義務のこともある。実質やつてもらうことは難しい。⁽²²⁰⁾連絡帳との保護者とのやり取りを読んでもらうことにとどまつている</p> <p>養④：⁽²¹⁴⁾実習IIの大きな柱ではあると思う。⁽²⁰⁹⁾受け入れ側の園の事情で大きく変わつてくる。1回目の実習から⁽²⁰⁸⁾地域の支援の実際を⁽²⁰²⁾見学、⁽²⁰²⁾</p>